

## 堆肥化発酵のポイント

### 水分調整と切り返し作業です！

#### 1. 水分調整の目安

堆肥化発酵スタート時の水分は、下記のとおりです。

その時の容積重は、いずれも 700kg/m<sup>3</sup> です。通気性を発現させるためには、容積重は 700kg/m<sup>3</sup> 以下にしなければならず、バケツではかる場合は測定誤差も考えて、0.65 以下を目安にします。

畜種	副資材無使用	戻し堆肥混合	オガクズ混合	モミガラ混合
牛	65%以下	68%以下	72%以下	75%以下
豚・鶏	55%以下	58%以下	62%以下	65%以下

必要な副資材（モミガラ）の量について

- ・乳牛ふん（経産牛 40 頭、育成牛 15 頭を飼養している場合）

経産牛 1 頭あたりの処理対象ふん量 50kg、育成牛 1 頭あたりの処理対象ふん量 16kg

1 日に処理するふん量は、 $2240\text{kg} = 2.5 \text{ m}^3$

1 日に必要なモミガラの量は、 $472\text{kg} = 2.4 \text{ m}^3$

例えば、ふんをバケツ 1 杯に対してモミガラもバケツ 1 杯混合する。

- ・肉用牛ふん（肉用牛 10 頭を飼養している場合）

肉用牛ふん 1 頭あたりの処理対象ふん量は 20kg

1 日に処理するふん量は、 $200\text{kg} = 0.24 \text{ m}^3$

1 日に必要なモミガラの量は、 $24\text{kg} = 0.12 \text{ m}^3$

例えば、ふんをバケツ 2 杯に対してモミガラは 1 杯混合する。

- ・豚ふん（母豚 30 頭の一貫経営の場合、肥育豚換算すると 300 頭）

肥育豚 1 頭あたりの処理対象ふん量は 2.1kg

1 日に処理するふん量は、 $630\text{kg} = 0.7 \text{ m}^3$

1 日に必要なモミガラの量は、 $160\text{kg} = 0.8 \text{ m}^3$

例えば、ふんをバケツ 1 杯に対してモミガラは 1 杯混合する。

- ・採卵鶏ふん（採卵鶏 5000 羽を低床式鶏舎で飼養して毎日除ふんしている場合）

このような形態で飼養している採卵鶏 1 羽あたりの処理対象ふん量は 140 g

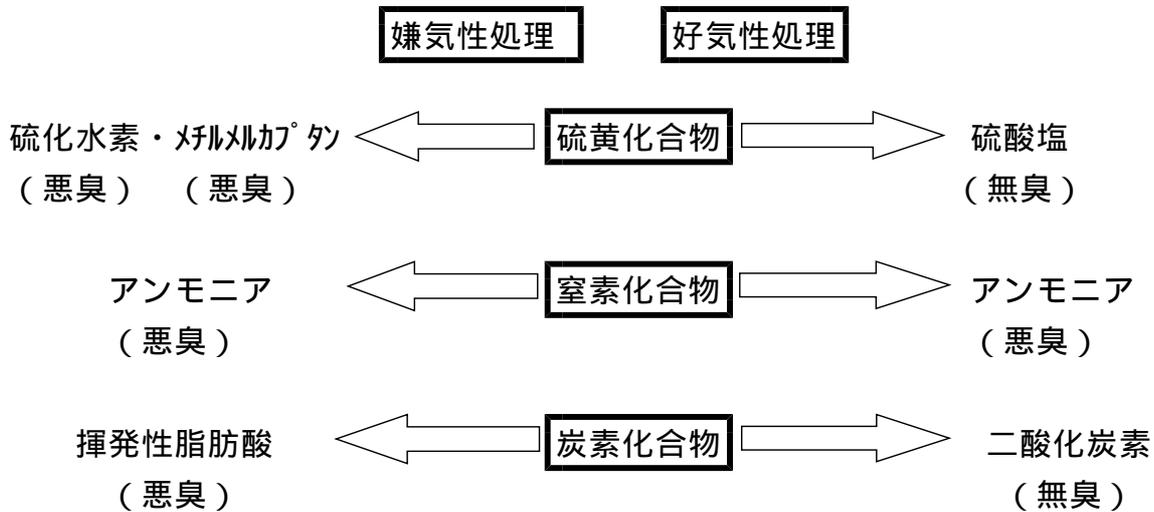
1 日に処理するふん量は、 $700\text{kg} = 0.8 \text{ m}^3$

1 日に必要なモミガラの量は、 $228\text{kg} = 0.9 \text{ m}^3$

例えば、ふんをバケツ 1 杯に対してモミガラは 1 杯混合する。

## 2. 切り返しについて

堆肥を切り返すのは、好気性発酵させるためです。好気性発酵により生産された堆肥は悪臭も少ないです。悪臭物質は嫌気性のときに多く発生します。



堆肥化発酵（温度が 60 以上）になるのは、堆積物の表面 30cm 程度までです。均一な発酵を進めるためにも切り返しは必要です。切り返しの頻度は出来れば週 1 回、最低でも月に 1 回は行う必要があります。

